

みんなで意識して取り組む授業改善 -目の前の生徒に アジャスト-

○できる子はさらにできるようになり、そうでない子は、ますます置いてきぼりになることがないように。

○基本的な読解に難を抱える子どもたち。

○生徒の状況に対応した思考力のレベルをどこにおくか。

○なぜその答えに至ったのかを説明できるのが学びの「深さ」。

○そのために必要な基礎的知識の範囲は？

○学力格差

○経済格差

○低い自己肯定感

○「土曜朝塾」：年間 30 日実施、延べ 1000 人参加を日途。
(11 月現在：24 回実施、延べ 754 人参加)

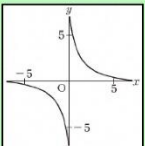
○「マイ・スタディ」：毎水曜日（ノ一部活デー）の放課後 20 分間、全学年で実施。

○「学習支援教室」：古高松・屋島地区に開講。
(毎土曜日 9:00~12:00)

「教師の考える目標」と「学習者の現状」とのギャップを察知・発掘し、改善する、そういう先生を**増やしたい**。

○簡単な問題であっても、2~3割の生徒が同じように間違える。

それが何年も続いている現状を改善するのが授業改善



目の前の生徒の「特徴的」なエラーを「予見」し、そこに指導を**「焦点化」**する。

- 「わかった?」「はい」…誰が発言したかすらわからない。例えば、書かせて確認する。
- 説明の対象を明確にする。(事柄・事実、方法、理由)
- 例えば、誤答を基にして、YES を YES と説明させるだけでなく、NO を NO と説明させることも大事。
- 例えば、稚拙な表現をもとに、説明を練り上げる場面を設定する。(先生と一緒に → 自分で)
- 例えば、説明は、口述させた後に、記述させる。

- 「今日の振り返りをしましょう」「次の時間までに書いて」…子どもに伝わっていない。
- 「振り返り」においては、「何を」振り返るのか、振り返る対象を明確に指示する。
(学習内容、解決の過程や学び方、自己の変容など)
- 例えば、「振り返り」は、口述させた後に、記述させる。
- 例えば、改善の状況を、定期試験等で必ず確認する。

**生徒の実態に即した
思考力、判断力、表現力等の育成**

英語科

○協働による対話的学び

○技能の習得と上達を促進

国語科

○個人の思考とグループでの活動を明確化

○グループ学習の発表形態の工夫

美術科

○話し合い活動による主体的な鑑賞

数学科

○間違いを発見し、その理由を説明

社会科

○様々な視点を持たせるための意見討論

ICTを活用する

「あなたは、自ら学ぶ姿勢をもって学習に取り組んでいるか」

年度	肯定的 (%)	否定的 (%)
H28	75.5	24.5
H29	78.3	21.7
H30	89.9	10.1

「リーディングスキル」への懸念